

氏名 島 崎 孝 一

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 282 号

学位授与の日付 昭和43年 3 月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 脾臓組織培養に関する研究
第1報 培養法の簡易化について
第2報 培地の物理化学的条件の影響について
第3報 臨床応用について

論文審査委員 教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 佐 藤 二 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1報では脾臓組織培養法の簡易化に関して、血清並びに発育促進物質の影響について検討した。その結果平木式臨床組織培養盤 No. 1 を用い、培地として非働化血清、VB₁₂ (100 γ /cc) を使用して脾臓組織を培養する方法を脾臓臨床組織培養法と呼び、従来の Plasma Clot Culture と比較したところ、培養成績においてやゝ劣るが十分実用の任に耐え得る事を知った。

第2報では脾臓臨床組織培養に及ぼす培地滲透圧、温度、pH 等の物理化学的条件の影響について検討した。その結果、比較的低温を除き非生理的な物理化学的条件は増生を抑制乃至は刺戟するが、これは培養にとって有害である事を知った。

第3報では腹腔鏡直視下に脾バイオプシーを行ない、採取された各種疾患の脾臓を脾臓臨床組織培養法により培養し従来の骨髓臨床組織培養法と比較して若干の増生様式の差を認めるが、同程度に診断並びに予後判定にとり臨床的意義の高いものである事を知った。

(3 報共昭和42年 4 月28日 岡山医学会雑誌第79巻第3, 4号に掲載)

論文審査の結果の要旨

本研究は従来臨床応用が全くされていなかった脾臓組織培養を簡易化して脾臓臨床組織培養法を考案し、物理化学的条件がその培養に及ぼす影響を考察した。次いで腹腔鏡直視下に完全に脾バイオプシーを行ない得られた各種血液疾患の人脾に応用し、その診断にとって有用な検査法であることを実証した。よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。